

18. 自動車技術分野における 国際標準化アクションプラン

1. 分野の全体概要・最近の動向

自動車分野は、従来からの自動車の技術に加え、新技術であるハイブリッド車（HEV）や燃料電池自動車（FCV）等の電動車両や、ITS（高度道路交通システム）に関する国際標準化活動が活発に進められている。

自動車は、国際商品として高度に発展した広範な技術分野を包含する一大集約産業である。安全性・環境保全の視点から、法規により要件が規定されている分野でもあり、国連の車両・装置等の型式認定相互認証協定（58年協定）や国連の車両等の世界技術規則協定（98年協定）による国際基準調和が進められている。ISOでの国際標準化活動も、国際基準調和の動向を視野に入れ進められている。特に、我が国主導で、TC22のビジネスプランに対し、UN（国際連合）/ECE（欧州経済委員会）/WP29との連携を盛り込んだ結果、TC22とWP29との連携がより緊密になった。一方、ISOにおいても、近年、電気自動車の安全仕様に関する規格等、安全性の視点からの規格が発行されている。SC21を除くTC22の国内審議団体は（社）自動車技術会であり、我が国は、TC22/SC22（モータサイクル）の幹事国である。

TC22/SC21（電気自動車）は、HEVやFCV等の電動車両の標準化を扱うSCである。また、長らく休眠状態であったIEC/TC69（電気自動車及び電動商用車）が、本年2月から実質的な活動を開始したため、今後TC22/SC21との連携、調整が求められる。TC22/SC21及びIEC/TC69の国内審議団体は（財）日本自動車研究所である。

ITSは、最先端の情報通信技術等を活用し、人と道路と車両を一体のシステムとして構築するものであり、その対象は、システムアーキテクチャ、インタフェース、データ辞書、システムの性能要件、自動車の走行制御、通信技術等に及び、広範囲な技術分野、対象を包含する標準化が進められている。国内審議団体は（社）自動車技術会である。

これらの標準化活動に関する全体概要は、6.（1）のとおりである。

2. 重点TCの選出及び国際標準化戦略（中期的計画及び課題）

自動車分野では、従来からの自動車に加え、新技術であるHEVやFCV等の電動車両やITSの国際標準化は、グローバル市場における我が国の産業競争力強化とともに、強制法規との関係も深く、かつ安全、環境にも資するため、以下の2つのTCを重点TCと位置づける。

【ISO/TC22（自動車）】

我が国の産業をリードしている自動車の国際標準化を扱うISO/TC22は、我が国の産業競争力強化に資する分野であり、研究開発から国際標準化まで一体的推進が行われている。同時に、社会ニーズへの対応（安全・安心分野等）のため、国際基準調和及び道路運送車両法等強制法規への対応が求められ、さらに、FCV、HEV、EV（電気自動車）等では、環境保全に寄与する国際標準化が進められている。産業界からの国際標準化支援も他分野と比較し、比較的積極的に行われている。

電気自動車の安全仕様（ISO6469）は、昨年、5年見直しで改正が決まったが、2007年3月に制定を予定しているJIS D 5305 電気自動車—安全に関する仕様を基に、我が国の技術を改正案に盛り込むべく、幹事国であり、かつISO6469の提案国であったドイツと調整を行い、プロジェクトリーダーの獲得を目指す。

2008年以降では、自動車内装材の揮発性有機化合物（VOC）放散測定方法（基準認証研究開発事業）、自動車制御用組込ソフトウェアの仕様・開発手法・プロセス管理（産学連携ソフトウェア工学実践事業）、また電動車両関連では、自動車用キャパシタの性能試

験方法（NEDO事業）、自動車用リチウムイオン電池の寿命試験方法等（NEDO事業）について、研究開発と連携し、我が国からの国際標準提案を目指すこととする。また、FCVについては、水素社会構築共通基盤整備事業（NEDOプロジェクト）の研究成果を、適宜、国際標準提案することとする。自動車部材では、自動車用骨格部材衝撃エネルギー吸収性能試験方法、及び高強度ボルト遅れ破壊試験方法等について、今後、研究開発体制の整備とともに、提案するTCも検討し、国際標準提案を目指すこととする。

また、アジア諸国での研修を毎年実施し、アジア諸国との連携強化を進めることとする（新規分野・産業競争力強化型国際標準提案（D））。

【ISO/TC204（ITS）】

ITSは、広範囲な技術分野の標準化を、研究開発と一体で進めている、我が国の産業競争力強化に資する分野であり、同時に、予防安全を中心とした、社会ニーズへの対応（安全・安心分野等）にも資する分野である。我が国が技術的に優位にあるため、他のPメンバーの賛成を得にくい状況も発生している。このため仲間づくりを目的に、2005年からアジア諸国での研修を実施し、アジア諸国との連携強化を引き続き進めることとする。

技術分野のみならず、所管官庁も複数にまたがるため、TCの各WGに対応する国内の分科会の事務局は、所管官庁と関係の深い団体が担当している。研究開発と一体の取り組みが多いため、ビジネスが立ち上がっていない分野もあり、産業界からの支援が課題である。

我が国が2006年に提案した、地図配信データ構造については、我が国と欧州の方式が異なるため、欧州案の扱いを引き続き調整する。また、既に一部高級車に搭載され、さらなる性能向上の研究が進められている車線逸脱防止システムについては、高級車以外の汎用車への普及や、我が国の優れた技術により、国際社会の課題である交通安全へ貢献するため、今後提案することとする。2008年以降は、我が国から提案済みのCALM-AM（中広域高速無線通信-アプリケーションマネージメント）（基準認証フォローアップ事業）、プローブ情報システムの個人情報保護等の国際標準化を引き続き進めるとともに、今後の提案を目指し、プローブ情報システムの匿名性・セキュリティ評価基準等の研究開発を進めることとする（基準認証研究開発事業）。

3. 重点TCの活動状況

（1）対象としているTC/SC/WG番号及び名称

6.（1）の表中◎印を付けたものが重点である。

（2）対象としているTC/SC/WGの最近の動向

【ISO/TC22（自動車）】

自動車の標準化を扱うISO/TC22（自動車）には、23のSC、約100のWGが設置され、現在審議されている規格数は約200にのぼり、安全・環境に係わる国際基準調和への技術的貢献を前提とする、評価法・試験法を中心とした標準化活動が一層活発になっている。

既に多くの技術分野別のSC、WGが設置されているため、新規提案を行っても、必ずしも新たなSCやWGの組織化に繋がらない。更に、自動車を巡る国際的な寡占化や企業間の合従連衡により、国際会議に常に出席するPメンバー国は、概ね最大5～6ヶ国であり、事前の合意無くして新規提案は成立し難い状況にある。事前の合意、連携、WG内での実質上の共同提案が一般的となっていることから、我が国提案のメリットと幹事国引き受けの意味合いは、他のTCとは全く異なる。

【ISO/TC204 (ITS)】

ITSの標準化を扱うISO/TC204では、SCを設置せず、12のWGにおいて標準化が進められている。我が国は積極的な提案を行っており、現在審議されている約80の規格のうち、我が国提案の規格数は約20にのぼる。昨年4月のTC総会で、我が国の国内委員会委員長が、TC副議長（TCローカルルール）に選出されている。我が国は、幹事国の米国と共に、TC内でのリーダーシップを発揮している。

我が国がコンビナーを担当しているWG3（ITSデータベース技術）においては、カーナビゲーションシステム等で利用されている地理情報データベースや、地理情報交換のためのインタフェースの標準化が進められている。また、同じく我が国がコンビナーを担当しているWG14（走行制御）においては、ドライバの運転負担の軽減、危険に対する注意喚起、事故回避等の予防安全、被害軽減を目的に、車載や道路インフラのセンサーによる外部情報を利用した車両走行制御に関わる標準化が進められている。WG16（広域通信）においては、プローブ情報（車両から得られる様々な情報）システムや、主に路車間通信で利用される中広域高速無線通信（CALM）の標準化が進められている。

4. 我が国の活動実績（2006年）

（1） 全体概要

【ISO/TC22（自動車）】

TC22における国際標準開発において、我が国の技術的貢献はドイツと並び最大級である。自動車における国際標準化活動はUN/ECE/WP29における国際基準調和との連携が必須であり、国際標準が技術基準（強制法規）へ効果的に反映されて、初めて有効な規格となる。以下、主なSCでの活動実績を示す。

SC1（点火装置）

エンジンの新技術に対応した新しいタイプのグロープラグ等の標準化により、活動が活発化しており、これらの規格に我が国の技術を盛り込むよう積極的に審議に参加した。

SC2（ブレーキシステム及び装置）

ブレーキライニングの試験方法、ブレーキ部品の試験方法、ブレーキ液の品質、及びブレーキの性能試験方法等に関する審議に参加した。ブレーキライニングの品質保証に関して、我が国の試験方法を盛り込んだ規格案がDIS段階に進んだ。ブレーキ部品の試験方法においては、我が国からの提案に基づく4件の改正規格が発行された。

SC3（電気装置）

重量車の車載故障診断装置（OBD ; On Board Diagnostics）の審議に積極的に参加した。当該規格はPASとして発行され、また、国際基準調和にも反映されるとともに、今後、中量車、軽量車への展開が予想される。また、電子制御システム開発の安全設計指針として、構想段階、システム設計、ハードウェア設計の広い分野を対象とした規格の審議に積極的に参加した。この他、電気妨害試験法、電線、ヒューズ、コネクタ、電子環境試験法等の審議に参加した。

SC5（エンジンテスト）

我が国がコンビナーを担当しているWG10で審議された、車両の走行抵抗設定法の規格

が発行された。また、主に重量車で採用されつつあるNO_x低減用SCR触媒コンバータ用尿素水溶液に関する規格の審議に参加した。

SC6（車両質量及び寸法の用語と定義）

トラックメーカーと架装メーカーとの間のデータ交換に関する規格の審議に積極的に参加した。この規格が発行されれば、当事者間の円滑で効率的な商取引に貢献することが期待される。

このSCでは車両カテゴリの定義も扱っているが、関連するUN/ECE/WP29側の審議が停滞しているため、ISO側の対応も休止状態にある。

SC7（自動車の燃料噴射装置及びフィルター）

燃料噴射装置及びフィルター関連の規格の改正と、エアクリーナ関連の審議に参加した。また、コモンレール式燃料噴射装置の実用化や噴射圧の高圧化に伴う規格の改正審議に参加した。

SC8（灯火器）

Retro-Reflective番号灯の審議に参加した。

SC9（操縦性・安定性）

操縦性及び安定性の試験方法の審議に参加し、乗用車4件及び大型商用車1件の規格が発行された。乗用車の規格を基礎とした、大型車規格の審議も活発に進められており、我が国も積極的に参加した。

SC10（衝突試験方法）

前突試験方法等の改正作業に積極的に参加した。

SC11（安全ガラスの材料）

光透過性測定法の書面審議に、我が国の技術を基に、積極的にコメントを提出した。

SC12（乗員保護装置）

我が国が提案した、狭いクーペタイプのリアシート用の小型タイプの幼児拘束装置（CRS；Child Restraint System）の取り付けジグの採用が認められ、我が国の意見を反映させることができた。我が国、及び欧米各国が積極的に審議に参加し、世界統一側突ダミーが発行された。その他、傷害基準及びリスクカーブ関連、CRSユーザビリティ評価方法、CRS側突試験方法、CPOD（Child seat Presence & Orientation Detection）等の審議に参加した。

SC13（自動車に適用される人間工学）

車両走行の安全性を確保するため、車載ITS関連機器とドライバとの間のインタフェースのあり方（表示方法、測定方法等）に関する規格の審議に参加した。車載ITS機器からドライバに提供される各種警報情報の定義、分類等に関する標準化は、我が国がタスクフォースの設置を提案し、米国との共同リーダーとなり審議を進めた。

SC14（外装部品）

ルーフキャリアに対する動的試験条件の審議に積極的に参加した。

SC17（視界）

数年ぶりに国際会議が開催され、カメラ等の新視界デバイス、フロントウインドーへのダッシュボード等の映り込みによる視界妨害、アイリプス試験方法の審議に参加した。

SC19（ホイール）

ホイールの寸法や試験方法等の審議に参加した。

SC21（電気自動車）

発行されたFCVの安全に関する仕様（ISO23273-1、-2、-3）、及びSC21関連の用語をまとめたTRの審議に参加した。その他、FCV燃費試験法、FCV走行性能試験法等の審議に参加した。我が国提案のHEV排出ガス・燃費試験法を発行段階に進めた。

SC22（モーターサイクル）

幹事国である我が国がバンコクでSC会議を開催し、投票案件や傘下のWGの議長交代について審議した。また、コンビナーを担当しているWG17において、我が国が提案したモペット用走行抵抗設定法（ISO28981）が発行されたほか、オートバイのガス状汚染物質の測定方法（DIS6460-1、2、3）のDISが承認され、発行段階に進んだ。

SC23（モペット）

モペット走行抵抗設定法（WD28981）について我が国から新規提案を行った。また、我が国より、電動二輪車の標準化の調査結果（基準認証研究開発フィージビリティスタディ事業）を基に、標準化のニーズ等を報告した結果、SC22とのジョイントWGが設置されることになった。

SC25（天然ガス自動車）

ガス充填に使用するコネクタ規格の改正審議に参加した。

SC26（ハンディキャップに関する車両のアクセシビリティ）

スペイン（幹事国）提案の Vehicles for transport of people with reduced mobility with a maximum capacity of 8 seated passengers, driver not included (WD23688) の審議に参加した。

【ISO/TC204（ITS）】

WG3（ITSデータベース技術）、WG14（走行制御）、WG16（広域通信）を中心に、積極的に審議に参加した。我が国提案の規格数は、審議中の規格の概ね1/4にのぼる。

WG1（システム機能構成）

用語の共通化、コンセプトの共有、文書やデータの記述方式の統一等、ITS関係者が共有すべき情報や手法について標準化を行っており、普及しつつあるXML、CORBA、UMLの使用ルール、ITSにおけるウェブサービスの利用（CD24097）、教育、ビジネスモデル等の審議に参加した。

WG3（ITSデータベース技術）

WG3では、さまざまな局面を想定しつつ、地理情報交換のためのインタフェースの標準化を行っており、拡張地図データファイル（WD22953）、地図配信データ構造（WD24099）、位

置参照手法 (CD17572)、API 標準 (PW17267) 等の審議に参加した。

WG 4 車両・積載貨物自動認識)

車両及び積載貨物をタグ等の媒体で自動認識する AVI (車両自動認識) / AEI (積載貨物自動認識) のシステム間相互運用に必要な標準化を行っており、路上機器と車載機器との間で通信を行い、車両の電子識別を行う電子登録番号認識システム (ERI) (TS24534-1~5) 等の審議に参加した。ERI のうち対称鍵技術を使った信頼性の確保 (TS24534-5) は、我が国からの提案である。

WG 5 (自動料金収受)

ETC (自動料金収受) システムの課金、決済に関する標準化を行っており、我が国から IC カードによる車載器決済 (NP25110) を TS として提案し、承認された。

WG 7 (商業車運行管理)

9.11 同時多発テロ以降、セキュリティを重要視した国際複合一貫輸送のためのデータ辞書・メッセージセットの標準化を行っており、我が国から提案した貨物輸送情報の認識とコミュニケーションのアーキテクチャ (PW126683) のほか、有害物質・危険物輸送の電子認識とモニタリングのためのデータ辞書 (FDIS17687) の審議に参加した。

WG 8 (公共交通)

我が国提案の緊急車両優先制御 (DIS22951) のほか、相互運用可能な (インタオペラビリティ) 運賃管理システム (FDIS24014-1)、公共交通の情報通信プロファイル (NP17686) 及び参照データモデル等の審議に参加した。

相互運用可能な運賃管理システム (FDIS24014-1) は、ウィーン協定による CEN リードで開発が進められている。我が国で本年3月から導入された Felica 方式-磁気カード方式の統合による運賃支払いシステムに関わる規格であり、政府調達に影響を与える可能性があった。4月のTC204総会に同時開催されたCEN/TC278/WG3/SG5での審議に参加し、我が国の方式を盛り込むことに成功した。10月のWG8会議において、具体的な仕様を規定する第2部について、規格化 (IS化) を主張する米国と、規格化しても各国ごとに異なる規格の羅列では使用できないのでTR化すべきという我が国及び欧州が対立したが、結局、我が国等の主張が取り入れられ、TR化が決定した。

WG 9 (交通管理)

交通情報、交通管理制御に関する交通管理センタ間、センタと路側間及び路側間の相互運用性を確保するための、情報の体系化と通信方式の標準化を行っており、我が国提案のTICS路側機器間通信 (CD15784-1、2、3) の他、TICSのデータ品質 (CD21707) 等の審議に参加した。

注: TICS (Transport Information and Control System); 交通情報・管理制御システム

WG 10 (旅行者情報)

FM放送、DSRC、携帯電話、デジタル放送等さまざまなメディアを通じて旅行者に情報を提供するためのデータ辞書やメッセージセットの標準化を行っており、放送型デジタル媒体を利用したTTIメッセージ (TS18234-2、7、8、9、10)、インフラ情報提供システム (TS14823)、TPEG XML (TS24530) 等の審議に参加した。

注: TTI (Traffic and Traveler Information); 交通・旅行者情報

WG14（走行制御）

外部情報を利用した車両走行制御に関わる標準化を行っており、我が国提案の車線変更意思決定支援システム（LCDAS）（DIS17387）と低車速追従走行システム（LSF）（CD22178）を中心に、車線逸脱警報システム（LDWS）（DIS17361）、全速度域車間制御システム（FSRA）（CD22179）、衝突軽減ブレーキシステム（RECMS）（PW122839）、拡張後方障害物警報システム（ERBA）（WD22840）、交差点信号情報・無視警報システム（ISVWS）（PW126684）等の審議に参加した。

WG15（狭域通信）

ITSアプリケーションに使用される狭域通信（DSRC）の標準化を行っており、狭域通信第7層（FDIS15628）、狭域通信第2層（WD15627）等の審議に参加した。

WG16（広域通信）

ITS分野の中広域高速無線通信における通信プロトコル及びパラメータに関する標準化、及びプローブ情報（車両から得られる様々な情報）の収集についての参照モデル、データ構造モデル等の標準化を行っている。我が国提案のCALM-NW（ネットワーク）プロトコル（CD21210-1,2）、プローブ情報（DIS22837）、プローブ情報システムの個人情報保護（CD24100）、CALM-AM（アプリケーションマネージメント）（DIS24101）、CALM-MAIL（CD24103）を中心に、CALMシステムアーキテクチャ（DIS21217）、CALM-IME（CD24102）等の審議に参加した。

注：CALM（Communications, Air-interface, Long and Medium range）；中広域高速無線通信

（2）活動実績

①提案規格数、②国際会議実績、③幹事国・議長等の引受実績は、6.（2）のとおりである。

④その他の活動実績

【ISO/TC22（自動車）】

中国及びマレーシアにおいて研修を実施し、アジア諸国との連携強化を進めた（新規分野・産業競争力強化型国際標準提案（D））。

また、SAE（アメリカ自動車技術会）との間で、国際標準化活動等に関する日米の連携を引き続き進めた。

【ISO/TC204（ITS）】

中国及びタイにおいて研修を実施し、アジア諸国との連携強化を進めた（重点TC旅費支援）。

⑤活動実績の評価

【ISO/TC22（自動車）】

TC22における我が国の技術的貢献はドイツと並び最大級である。自動車における国際標準化活動は国際基準調和との連携が必須であり、我が国が中心になり連携を推進した。

【ISO/TC204（ITS）】

我が国提案の規格数は約1/4を占め、また2006年4月のTC総会で、我が国からTC副議長が選出され、TC内でのリーダーシップを発揮した。

5. 我が国の活動計画（2007年）

（1）全体概要

【ISO/TC22（自動車）】

以下に主なSCでの活動計画を示す。

SC3では、ソフトウェアを中心に電子制御システム開発時の安全設計指針の審議が、本年末のCD投票予定で進められており、我が国でも研究体制の整備とともに、その成果の国際標準化を進めていくこととする。多重通信ダイアグ分野では、故障診断通信を利用したエアバック一括処理、重量車の車載故障診断装置に関する成果（PAS）の中軽量車への展開等が進んでおり、引き続き審議に積極的に参加する予定である。

SC5では、尿素水溶液の流通段階における品質管理方法に関する標準化に対して、欧州各国と我が国及び米国との考え方が異なっているため、引き続き国際会議に出席して我が国の意見を反映させることとする。

SC13では、我が国の仕様を反映した、右ハンドル車のコンビネーションスイッチ配置の特例規定の扱いについて、引き続き審議を注視していくこととする。また、認識しやすい識別記号の作成、車両走行の安全性確保の観点から検討すべき事項が多く、引き続き国際会議に積極的に参加して、我が国の技術を規格に反映していくこととする。

SC21のうち、FCV関連では、自動車全体やコンポーネントの開発動向等を考慮し、今後適切な時期に提案を検討する。HEVでは、我が国提案のハイブリッド自動車の排出ガス・燃費試験法（外部充電なし）が発行される予定である。この規格を補足するものとして、本年中に、我が国提案の電気量計測法をTRとし発行する予定である。また、外部充電なし、に引き続き、外部充電有り（プラグインHEV）についても、我が国からの提案を目指し、引き続き検討を進める。近年普及が加速しているEVでは、電気自動車の安全仕様（ISO6469）等の改正審議において、プロジェクトリーダーを獲得し、JISを基に我が国の意見を盛り込んでいく。また、自動車用二次電池（リチウムイオン電池）及びキャパシタの標準化も、国内の体制を強化し、引き続き進めることとする。

SC22では、ブレーキに係る国際基準調和の改正に伴い、関連する規格の改正審議を開始する。排ガスと燃費試験法は発行まで進め、最高速度試験法の改正については新規提案を行い、CD段階に進める。ライダー保護装置の評価のための実験・解析方法の改正審議は、我が国が中心となって進めることとする。

その他、今後の我が国からの提案を目指し、自動車内装材の揮発性有機化合物（VOC）放散測定方法の研究開発を開始する予定である（基準認証研究開発事業）。

インドネシア及びフィリピンにおいて研修を開催し、引き続き、アジアの仲間作りを進めることとする（新規分野・産業競争力強化型国際標準提案（D））。

【ISO/TC204（ITS）】

車車間通信等を利用した安全運転支援に関わる標準化活動が活発になると予想されるので、この分野での研究開発を引き続き進め（ITSの規格化事業第2フェーズ）、我が国のリーダーシップを維持していくこととする。

WG3では、我が国提案の地図配信データ構造（WD24099）の審議に注力する他、今後の提案に向け、日中韓の連携による、地図更新技術の国際標準提案の検討を開始する予定である（基準認証研究開発フィージビリティスタディ事業）。

WG14では、車線変更意思決定支援システム（LCDAS）（DIS17387）、低車速追従走行システム（LSF）（CD22178）の審議に参加する他、車線逸脱防止システムの性能要件及び試験方法をPWI提案するとともに、今後のNP承認を目指した活動を行う予定である。

WG16では、我が国から提案済みのプローブ情報（DIS 22837）、プローブ情報システムの個人情報保護（CD24100）に加え、今後の我が国からの提案を目指し、プローブ情報システムの匿名性・セキュリティ評価基準等の研究開発を開始する予定である（基準認証研究開発事業）。中広域高速無線通信（CALM）についても、我が国提案のCALM-NWプロトコル（CD21210-1、2）、CALM-AM（DIS24101）、CALM-MAIL（CD24103）を中心に積極的に審議に参加することとする。

昨年に引き続き、タイにおいてセミナーを開催し、タイのPメンバー参加を目指したアジアの仲間作りを進めることとする（重点TC旅費支援）。

（2）新規提案予定件数：2件

（3）幹事国等引受予定件数：なし

6. 参考資料集

(1) 自動車分野のTC/SC及びWGの活動状況及び重点分野

TC 番号	SC 番号	WG番号	名称	参加 地位	国内審議団体	幹事国	日本 議長	日本 主査	重点分野
ISO 22	0	J1,1,5, 9,10- 13	自動車	P	(社)自動車技 術会	仏			◎
22	1		点火装置	P	(社)自動車技 術会	独			
22	2	2,3,4,6, 10	ブレーキシステム及び装置	P	(社)自動車技 術会	仏			
22	3	1,3- 7,9,11 -16	電気装置	P	(社)自動車技 術会	独			
22	4		キャラバン及び軽トレーラ	P	(社)自動車技 術会	仏			
22	5	2,3,6- 14	エンジンテスト	P	(社)自動車技 術会	仏		○ (WG1 0)	
22	6	1,2	車両質量及び寸法の用語 と定義	P	(社)自動車技 術会	伊			
22	7	1,2,3,6	自動車の燃料噴射装置及 びフィルター	P	(社)自動車技 術会	独			
22	8	2,3,7	灯火器	P	(社)自動車技 術会	伊			
22	9	1,2,3,4, 5,6,7,	操縦性・安定性	P	(社)自動車技 術会	独			
22	10	1,2,3,4	衝突試験方法	P	(社)自動車技 術会	米			
22	11		安全ガラスの材料	P	(社)自動車技 術会	米			
22	12	1,3,5- 9	乗員保護装置	P	(社)自動車技 術会	仏			
22	13	3,5,7,8	自動車に適用される人間 工学	P	(社)自動車技 術会	米			
22	14	1,2,3	外装部品	P	(社)自動車技 術会	スペイン			
22	15	3,4	商業車部品の互換性	P	(社)自動車技 術会	伊			
22	16	3	火災予防	P	(社)自動車技 術会	独			
22	17		視界	P	(社)自動車技 術会	伊			
22	19	2,3,4,5	ホイール	P	(社)自動車技 術会	米		○ (WG5)	
22	21	1,2	電気自動車	P	(財)日本自動 車研究所	独		○ (WG2)	
22	22	1,3,8,1 0,15,1 6,17,2 1,22	モーターサイクル	S	(社)自動車技 術会	日	○	○ (WG1 5,17,2 1)	
22	23	1,2,3,4, 5,6,7,8, 9	モペット	P	(社)自動車技 術会	伊		○ (WG1, 3,6)	
22	25	1,2,3	天然ガス自動車	P	(社)自動車技 術会	伊			
22	26		ハンディキャップに関する 車両のアクセシビリティ	P	(社)自動車技 術会	スペイン			

ISO 204			ITS(高度道路交通システム)	P	(社)自動車技術会	米			◎
204		1	システム機能構成	P	(財)日本自動車研究所 注3)	英			
204		3	ITSデータベース技術	P	(財)日本デジタル道路地図協会)	日		○	
204		4	車両・積載貨物自動認識	P	(社)新交通管理システム協会	ノルウェー			
204		5	料金收受	P	(財)道路新産業開発機構	スウェーデン			
204		7	商業車運行管理	P	(財)道路保全技術センター	加			
204		8	公共交通	P	(財)国土技術研究センター	米			
204		9	交通管理	P	(社)新交通管理システム協会	オーストラリア			
204		10	旅行者情報	P	(社)新交通管理システム協会	独			
204		11	ナビ・経路誘導	P	(社)自動車技術会	空席			
204		14	走行制御	P	(社)自動車技術会	日		○	
204		15	狭域通信	P	(社)電子情報技術産業協会	独			
204		16	広域通信	P	(社)電子情報技術産業協会	米			
IEC 69		1,2,3,4	電気自動車及び電動商用車	P	(財)日本自動車研究所	仏			
			注1)◎印がついているのが重点分野						
			注2)日本議長、主査には○印						
			注3)ISO/TC204の各WGの幹事国欄に記載の国名は、コンビナー担当国						
			注4)ISO/TC204の各WGの国内審議団体欄に記載の団体は、国内分科会の事務局						
			自動車分野計						
TC 数	SC 数	WG数				幹事	議長	主査	
3	23	117			日本引き受け数	1	1	11	

(2) 2006年活動実績データ						
①提案規格数 新規5件、改正0件						
TC	SC	WG	規格名称	新規・改正の別		
22	23	1	モペット用走行抵抗設定法			
204		1	ITSにおけるウェブサービスの利用			
204		3	地図配信データ構造			
204		16	プローブ個人情報保護			
204		16	CALM-MAIL (DSRC)			
注) 改正は▲印						
②国際会議実績						
a) 参加実績						
		TC22	延べ158人			
		TC204	延べ191人			
b) 日本での開催実績						
TC	SC	WG	開催地	開催月		
22	3	16	東京	2006年4月		
22	3	13	東京	2006年10月		
22	21	1.2	つくば	2006年10月		
③幹事国・議長等引受実績						
なし						